

会 議 録				
令和2年度第1回 生活支援事業協議体	日 時	令和2年7月28日(火) 14時00分～15時00分	場 所	市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	高良委員長(法政大学) 小早川委員(社会福祉協議会) 阿久津委員(社会福祉協議会) 山根委員(介護事業連絡会) 尾崎委員(民生委員児童委員協議会) 井上委員(ボランティア団体代表)		
	事務局	第2層コーディネーター 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター) 小野氏(小金井きた地域包括支援センター) 田口氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 吉田氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 第1層コーディネーター 菊地原(小金井市 介護福祉課) 平岡、濱松、田村(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 報告事項				
① 前回協議体からの進捗等				
② 令和2年度版「応援マップ」作成について				
③ 令和2年1月から3月分生活支援連絡会報告				
④ 生活支援コーディネーター活動報告				
⑤ 令和元年度各地域包括支援センター活動報告				
⑥ 令和2年度各地域包括支援センター活動目標				
⑦ 目指す地域像について				
(2) 検討事項				

① 協議体委員増員について

② 地域課題抽出について

3 その他

次回協議体の開催予定

4 閉会

1 開会

(田村氏)

I Cレコーダーの録音形式をとること、および新型コロナウイルス感染拡大防止のために、1時間程度での開催となることが伝えられた。

(平岡高齢福祉担当課長)

平岡高齢福祉担当課長 挨拶

2 議題

(1) 報告事項

① 前回協議体からの進捗等

② 令和2年度版「応援マップ」作成について

③ 令和2年1月から3月分生活支援連絡会報告

④ 生活支援コーディネーター活動報告

⑤ 令和元年度各地域包括支援センター活動報告

⑥ 令和2年度各地域包括支援センター活動目標

①から⑥については書面にて報告。

⑦ 目指す地域像について

(菊地原介護福祉課職員)

私たちがいう住民主体というのは、地域住民、自らの暮らしづくりの主体であるということ、生活支援事業は主な事業の内容というのは「まちづくり」であって、まちづくりにはそこで暮らす地域住民を外して物事を決めないという意味を御理解いただきたい。

あらたな目指す地域像について提案し、合意された。

お互いさまからつながる地域づくり ～住民主体の生きがいのあるまちをつくろう～

(2) 検討事項

① 協議体委員増員について

(菊地原介護福祉課職員)

小金井市として生活支援体制整備事業を推進するに当たり、新たに委員2名増員を提案したい。この事業の主な目的は先ほども述べた「まちづくり」であり、「地域の中での助け合い」ということに重点を置いている。自治会・町会の地域のつながりはこの事業を推進する上で欠かせない。

もう1名については、議題によって構成メンバーを入れ替えてみてはどうか。

(高良委員長)

この協議体というのは、第1層のコーディネーターの方々も、第2層のコーディネーターの方々が実際、それぞれの圏域でしっかりと地域づくりをできるという状況をつくり、それをサポートするというのが非常に重要な役割だと思う。第2層の協議体がより具体的にそれぞれの圏域で活動できるようにしていくためのものであり、それらの中から共通項で見える課題や、市として動いていかなければいけないことであるとかということも第1層のところで把握し、サポートしていくということが大きいところ。そのためにも町会・自治会の方に入っていただくというのは一つ地域づくりというところで考えていくと重要な委員の方ではないか。

それぞれの議題によって変えていくということも非常に面白い、いいシステムではないかと思う。

② 地域課題抽出について

(菊地原介護福祉課職員)

各圏域からの地域課題、およびコロナ禍において通いの場の活動団体代表者むけに行った活動再開に向けての説明会からでた地域課題について説明。

喫緊の課題として、「安全に通いの場を再開することに不安がある」「コロナウィルス感染拡大防止のため、通いの場の減少」「コロナ感染の不安から通いの場に参加できない」この3点があがった。

(高良委員長)

この3点は市レベルの課題であるというのはもう明白。より具体的な把握、ちょっとでもできることは何かの対応出しをしてみてもどうか。

(井上委員)

やはり感染が怖い。何か月も休んでみて分かったが、高齢者はこの何か月ですごく機能が落ちる。だから、本当は通いの場は早く再開したいが、今、ちょっとたじろんでいる。休んでいる間、電話でコミュニケーションは少し心がけた。

(尾崎委員)

皆さんが集まってお話をすることが一番楽しい、まずそれができないということ。人としてコミュニケーションを取ることの重要性、そこをどういうように補ってあげればいいのか年代を問わず大事なことではないか。

(高良委員長)

例えば小金井市としては通いの場を始めるに当たってこんなところをやったらどうですかみたいな提案みたいなのがあったほうが運営をしやすいというのはあるか。

(濱松包括支援係長)

通いの場の再開に向けた説明会というのを市とコーディネーターさんと一緒に開催した。市としては国やそのほかのところが出しているガイドラインに準じた形で案内できる情報の範囲で、こういったところに留意して再開しましょうというのを医療職種等からサロンの主催者の方に向けてお話をした。

(尾崎委員)

主催する側だけでなく参加する側に周知されるかということだと思う。不安から通いの場に参加できないというところは大きな問題だと思う。

(田口氏)

運営者側の皆様には、参加しなくなった方の把握や参加の呼びかけが大切だと思いますところで案内をしている。「参加者向け」というのも配付している。

(高良委員長)

例えばこれを今までの参加者の方に皆さん配ることは、可能か。コピーなどの経費についてはどうか。

(井上委員)

徹底してお約束を書いたはがきを出した。費用については活動費を充てた。

(小早川委員)

助成金を出している立場ですが、手を洗うようなものを買うとか、そういったものに使うという団体さんも出てきているのは事実だと思う。

(高良委員長)

財政面での問題があるというわけではない。不安でなかなか通えないということについてはどうか。

(小早川委員)

この主催者側の件でも温度差があり、最後に誰かが責任を取ってくれるのという話になる。ある程度のガイドラインは必要かもしれないが、運営する人と参加する人の考え方というのか、最後はどうしてもそこは出てきてしまうのではないか。

(高良委員長)

例えば保険は、ボランティア保険とかと。

(小早川委員)

ボランティア保険は6月ぐらいから主催者、ボランティアする人がコロナにかかった場合は適用するというようになった。自分が人にうつしてしまった場合の賠償責任は入っていない。

(高良委員長)

利用者さん、参加者さんのほうに出た場合というのは何もないところが不安な要因の一つにはなるのだろうと思う。

(山根委員)

小介連の運営会議では、イベント自体は基本的には中止、新しい生活様式、コロナを含めたところに向けて、Z o o mとかを使っている。

(高良委員長)

高齢者の方々もZ o o mとかを利用されるのはできそうか。

(小野氏)

梶野町にあるサロンからZ o o mの勉強会をやってほしいという依頼があった。

(小早川委員)

Z o o mができない人もいる中で、何かほかのことができないかと検討した。子供会さんとか小学校、中学校とかの子供たちにお願ひして残暑お見舞いを書いてもらうことや、ひきこもりの人たちにイラストを描いてもらうようようにお願ひした。

(高良委員長)

お手紙ももちろん一つのツール、ひきこもりの方とかつながりをつくっていくのは同じ高齢者だけではなく、それぞれの方との多世代も含めてのつながりをつくっていくといういい機会。

通いの場を再開するのを不安に感じるというのは、説明会も開いて不安は解消されている。通いの場の減少に関しては不安があるのでやっていない、いつまでたってもこれはできないという方たちも中にはいる。でも、Z o o mや手紙や電話などいろいろな別の手段で対応していくということを模索している、それを支援もしていかなければいけないのだろうと思う。

参加される方々の不安に関しては、参加者向けに気を付けることを周知していく必要がある。

Z o o mとかの使い方の勉強会をしてほしいというような要望もあるということを見ると、また考えていく必要性はあるのではないかなと思う。

3 その他

次回協議体の開催予定

(田村氏)

次回は9月25日金曜日午後2時から、会場は本日と同じ801会議室を予定。

4 閉会